

防火アピール、秋の火災予防運動

10月15日から同月31日までの秋の火災予防運動で、東消防署、東川消防団は、防火訪問、防火夜回り、放水訓練を行い火の用心を呼びかけました。

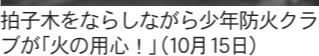
お年寄り世帯の火災が増えているため、今年は、期間中初めて75歳以上の高齢者住宅を防火訪問しました。同居、夫婦2人暮らしの家庭13戸（東川、東神楽両町）。暖房器具の点検や灯油タンク、ストーブの

送油ホースのひび割れ、コンセントからのたこ足配線の危険はないかをチェックし、住宅用火災警報器の設置を呼び掛けました。15日から4日間、東川小児童の少年消防クラブ員が拍子木を手に住宅地を夜回りしました。

8人から10人でグループを組み、夕食の炊事時間に合わせて午後4時過ぎから約30分間、市街地約1キロを巡回しました。19日には婦人防火クラブ員と一緒に商店街で



キトウシ物産センターで送水中継・放水訓練(10月21日)



拍子木をならしながら少年防火クラブが「火の用心！」(10月15日)

この後、消防団員が町内各地区1028戸を家庭防火訪問。暖房器具や火の取り扱いに注意を呼びかけました。

住民参加で地域福祉の充実を―町社会福祉大会開く

11月17日、農村環境改善センターで(社)東川町社会福祉協議会主催の第31回東川町社会福祉大会が開かれました。

町内各団体の代表ら約250人が参加しました。あいさつに立った宮坂幸好会長は「地域とともに福祉を支えるボランティア活動を進め、介護が必要になっても誰もが尊厳を持つて生活できる社会であることが大切」と住民参加の福祉を訴えました。

松岡市郎町長はあいさつの中で「平成26年に迎える開基120年に向けて、子どもたちがしっかりと学習でき、生活を担う世代となること出来るようにしたい。そのため東川小学校、児童センター、高齢者福祉センターの改築をしたい」などと話しました。

大会上、25人4団体が社会福祉協議会長表彰など各種表彰を受けました。以下表彰された方は次のとおりです(敬称略)。

▼東川町社会福祉協議会長表彰 藤田朋子(民生委員児童委員)、松坂清市、高橋正三、千田信太郎(以上老人クラブ連合会役員) ▼同感謝状



宮坂会長の式辞

町民総合文化祭今年も大に盛り上が



文化ギャラリー会場の作品展

町内で文化活動をしているさまざまなグループ、団体の活動発表を紹介する第37回町民総合文化祭が10月27日から11月15日まで文化ギャラリー、農村環境改善センター、東川中学校、囲碁クラブ会館(南町2)の4会場で行われました。

作品展は、10月27日から9日間、文化ギャラリーが会場になりました。絵画、書道、写真、切り絵・貼り絵、編み物、人形、盆栽、短歌、俳句など15団体、14個人延べ230人から、前年を50点上回る約400点の作品がずらり。季節ならではの菊の鉢物、盆栽が会場を彩りました。



旭川福祉専門学校生のオペレッタ「オズの魔法つかい」(芸能発表会)

農村環境改善センターでは、10月28日に赤十字奉仕団のチャリティーバザー、11月3日に文化芸能発表会を開きました。

チャリティーバザーには、町内の農家から格安新鮮な野菜や日用品がずらりとそろい、大にぎわいでした。文化芸能発表会は、旭川福祉専門学校保育科生徒の人形劇「西遊記」とオペレッタ「オズの魔法つかい」を皮切りに、各小学校児童の舞台、町民の舞踊、民謡、詩吟、カラオケ、コーラスなど多彩な発表でにぎわいました。

今年も大に盛り上が、中・高校生の農業体験修学旅行

都市と農村の交流推進を目指しているひがしかわグリーンツーリズム推進協議会(井下佳和会長)の農業生活体験が今年も中・高校生でにぎわいました。10月24日、今年最後の受け入れで到着したのは大阪府立花園高校の39人。1泊2日で町内7カ所、旭川市内4戸、美瑛町内の1戸に分かれ、農作業の体験に汗を流しました。



この時期は農作業もほぼ終わり。体験できたのは、ジャガイモ掘り、ホウレン草の摘み取りとビニールハウスの後片付け程度ですが、都会育ちの生徒には新鮮な経験だったようです。

町民の写真を集めた「町民写真展」が好評

夏休み中の東川小学校舎内や町内各所でモデル撮影したファッション誌「流行通信GIRL」(INFAS)パブリケーションズ刊、A4変形判196頁、定価780円(税込)の「写真」が10月12日発売になりました。昨年発売された「シャッター&ラブ」に続いて2度目の町内口ケ。編集



長兼カメラマンは滝川実花氏。表紙の沢尻エリカさんをはじめ、長谷川潤さん、安田美沙子さん、藤井リナさんら人気モデルがずらり勢ぞろいしています。道内3カ所で撮影口ケを行いました。町内での撮影分は全編中26ページと中とじ本の14ページです。